

神小だより

第8号



特色ある取組等(神領小学校HP)

師走を迎えた。心を通わす「あいさつ」の力

毎朝校門に立っていると、その時期の…その時々の、空の色、太陽の光、虫の声、風の音などを、目や耳、心で感じます。最近では、感性が高まってきたのか、不思議なことに空気の色や匂いを感じるようになりました。

12月に入り、空気も変わり吐く息も白くなり、冬の気配が少しずつ濃くなってきました。校門近くの寒椿もつぼみを膨らませ、雪景色・衣装で彩られることを待っているかのようです。朝晩は、本当に寒くなりました。かじかむ手をこすり背中を丸めながら歩くこの季節、朝晩の冷え込みに億劫さが増すこの時期だからこそ、「あいさつ」がもつ力の大きさを改めて感じています。30m余先から交わすあいさつ。神領小学校ならではの朝のコミュニケーションです。30m先からのあいさつは、ただ通りすがりに交わす言葉、独り言ではなく、する相手を見据えなければできません。○○さんがいることを確認して、そして○○さんにしっかりと届くように、私は毎朝腹の底から力一杯の声を出し、心を込めて、「おはようございます」を届けています。

天候や季節によって、あいさつの声の響き方が違います。雨が降った翌日の晴天は、声がよく響きます。さらに、空気が冷たくなる冬は、最大に響き渡ります。きっと空気が澄んでいるからでしょう。子供たちの「おはようございます!」という声が響くと、本当に学校全体が明るく温かい雰囲気に包まれます。あいさつは単なる言葉ではなく、「あなたは私の大切な存在です」という気持ちを伝えるもの、安心感や自己肯定感を高めることにつながるものであると実感しています。あいさつがもつ力が子供たちの心を温め、豊かにしてくれることを願って、これからも心を込めて力の限りあいさつをしていきます。

自他を大切にする

徳島大学病院周産医療センターより講師先生をお招きして、全学年で「いのちと心の授業」を行いました。授業のなかでの『この世に生を受けた瞬間に母親が涙を流しながら発した言葉』や『いじめられるために生まれてきたのではない。いじめるために生まれてきたのでもない』をキーワードに、かけがえのない大切な命を輝かせて生きしていくために必要なことをたくさん教えていただきました。子供たちは、この授業を通して、自他の命について考えを深めることができました。授業後の子供たちの感想にもそのことが記されています。子供たちが記したことが実現できるよう、また「自他を大切にすること」を学校生活や、友達との関係のなかで生きてはたらくものにしていけるよう、各学級等で継続して指導・支援していきます。



「愛語」 言葉のもつ力

日本は、古来から「言霊の幸ふ国（ことだまのさきわうくに）」と呼ばれ、言葉には不思議な力があり、その言葉が幸せをもたらすという考えを大切にしてきました。今から約800年余前の鎌倉時代でも、それと同様のことが、『正法眼蔵』（僧侶道元の仏法の神髄を著した書物）に記されています。その書物に「愛語」という言葉が出てきます。愛語には、言葉を愛する、愛や心を言葉で表す、という意味があるとのことです。つまり、人と人とのつながりや日常の社会生活の中で大切なことは、相手に温かく、優しい言葉をかけることであると、私は捉えています。



私たちの何気ない日常の会話の中でも、言葉のもつ役割はたいへん大きいものがあることは、誰もが経験していると思います。全校朝会でも「フワフワ言葉」「チクチク言葉」について話をし、言葉の大切さについて子供たちと共有しました。温かく幸せな気持ちになる「フワフワ言葉」、悪気なく使ってしまっている相手の心に突き刺さり傷つける「チクチク言葉」、どちらが良いかをよく分かっているはずなのに、「チクチク言葉」が口をついてしまうのはどうしてでしょう。言葉は本当に重要で、その一言で勇気づけられたり、逆に自信を失ってしまったり、人生に大きく影響したりもします。

11月のある日、校長室の前で道徳の授業が行われていました。「フワフワ言葉とチクチク言葉」について、真剣に考え方学習をする1年生。今1年生は、様々な教育活動を通して、目標や目的に向かって友達と協働しながら、どんどん成長しているところです。多様な人やモノ、コトと出会い(合)い、よりよい人格形成をしている時だからこそ、「言葉を大切にして人とつながる」を目標にした授業は、子供たちを人としてより大きく成長させます。フワフワ言葉を増やし、たくさんの人々に広げていく子供たちを育てていきます。